

宗像市市民参画等推進審議会会議録（審議会資料）

日 時	平成28年10月4日（火） 14:00～16:00
場 所	宗像市役所 103A会議
委 員	*■出席 □欠席（五十音順、敬称略） ■ 井上豊久 ■ 木村健次 □ 志岐宏美 ■ 中里留美子 ■ 東博子 ■ 松永年生 ■ 南博 ■ 毛利拓也 ■ 山下恵美子 ■ 吉田晴希
事務局	コミュニティ協働推進課；瀧口、中野、中脇、神建築課、維持管理課、子ども育成課

1. 会長あいさつ

今日の審議会では、市民サービス協働化提案制度の審査を行います。長丁場になるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

◆審議に先立ち、先日から皆様に議論いただいております宗像市コミュニティ施策検証審議会の答申に係る意見書をまとめさせていただきました。内容につきましては皆様に事前にご案内差し上げていたとおりです。本日、会長から市長の代理の市民協働環境部長に答申を受けさせていただきます。よろしくお願いいたします。

⇒意見書答申

2. 平成28年度宗像市市民サービス協働化提案制度審査

事務局より、資料に基づき審査の流れ及び答申までのスケジュールについて説明

（●審査員、⇒申請団体、◇市関連部署）

（1）宗像市営住宅営繕監理業務委託

市関連部署；建築課

団体及び担当課から、提案内容について説明後、質疑応答

●事業を実施するうえで大変だったことや問題だったことがあれば教えてください。

⇒いろいろなボランティア活動をするにあたって、宗像市内の事業者と市民の皆さんとのふれあいが行われるようになりました。安心スマイル部会は、今年は日の里の公民館の無料検診を行いました。公民館の館長さんから依頼があればお伺いしてこういうところが悪いですよと報告させていただきました。

●「住マイむなかた」の役員さん、行政の担当の方も変わっていかれると思うのですが、コミュニケーションをとるにあたって困ったことや工夫されていることなどはありますか。

◇市としては、「住マイむなかた」の事務局が2名しかいらっしやらないので、携帯を市の方でも持たせていただき、何かあったときは市の方でも対応できるように、市民の方が電話

されて誰も相手ができないということがないように気を付けています。

●7年経って、市の業務が減ったのかどうか、状況を教えてほしい。

◇当初に比べるとプロフェッショナルの住マイむなかたさんに担当していただくので、市の業務としてはかなり減っているのではないかと思います。ただ、市としても業者の選定や現場での立会などには一緒に行かせていただきます。市単独ですと、何度も現場に行くことが増えると思います。ですので、そのあたりでかなり時間の短縮になっていると思います。人件費から考えるとかなり軽減されているところもあると思います。

●住マイむなかたさんの業務内容がどうなのかということを知りたい。市の委託を受けた分の割合やそれ以外の業務の割合がどうなっているのかについて。

⇒パンフレットを見ていただけたら分かると思うのですが、業務のほとんどは市からの委託事業が占めています。先ほど申し上げたように、安心スマイル部会、ブランド住宅部会、定住化促進部会といったボランティア活動をしておりますので、結構の割合での市からの委託が増えております。

●要するに市の業務がほとんどで、あとはボランティア活動だということですね。

⇒はい。

⇒付け加えて、宗像市は住宅団地が多く、空きが増えたり高齢者が多くなったりしています。この先どうするかということについて相談を受ける不動産フェアなどを年に一回・二回開いています。大きくは年に一回実施しているのですが、個別には各コミセン単位で年に一回やっというこうということで、昨年度は日の里でしたのですが、今年は自由ヶ丘のコミセンでそういう相談会をしようかと思います。団地内であれば一人で住んでいる方も増えており今後どうしようかということもありますので、市の空き地空き家バンク活用に「住マイむなかた」の活動として少しでも市民の方のためになることを考えてさせて頂いております。

●そうすると「住マイむなかた」の自主事業は不動産の斡旋などではなくて、相談会的なものということですね。

⇒「住マイむなかた」がどういうことをしているかということについて宣伝にもなるのではないかと考えています。まずは市民の方に知ってもらおうということが大事なので。

●営繕だけではなく、空き家の方にも力を入れて事業をされて、その他にボランティア活動も実施していただいているということですね。

●事務員さんの時給が820円で計算されていますが、これを見直す予定はないですか。

◇これは、市の予算としては金額が決まっているもので、あとは「住マイむなかた」さんが新人の職員さんの時給は820円から始まり、経験を積めば値段を少しあげていくということによいのではないかと思います。

●市の積算については市役所の臨時職員の時給を使っていると思うが、今年度から最低金額が見直しになっていると思います。平成24年度の全国平均が822円ですよ。820円は少し低すぎではないですか。

◇4年に一度見直す機会がありますので、その時に検討したいと思います。

●今日提案があるなかでWithWindは850円。それから、正助ふるさと村の場合は800円、そして住マイむなかたさんの場合は820円、というところですね。そのあた

りは、協働化提案制度の事務局として調整したりなどはしないのでしょうか。

◇先程も申しましたように、市としては最低賃金の見直しを参考にして、妥当だと思われる賃金の設計金額は組ませていただきます。

●70人いらっしゃる会員の会費は何の原資になるのですか。

⇒年間費18、000円を会員さんからいただいておりますが、ボランティア活動するにもお金がかかりますので、会の運営費や人件費にも充てさせていただいております。そして、「住マイむなかた」の原資は、市からの委託料も含めて会員さんの年間費がないと運営できないような状況ですので、運営資金に回っています。

●市にお伺いしたいのですが、協働委託でこの営繕事業をやることによって行政にとってどんなメリットがありますか。

◇入居者の方から何かあったら建築課に電話がかかってきてそこで対応していたのが、その電話対応を市職員がなくて済むということです。

●こだわるようですが、こういう事業をしなくて済むというのが本来の協働の精神ではないと思います。一緒にやろうという話なので、これは向こうに投げたので自分たちの肩の荷が下りたというのは本来の協働の姿ではないのでは。

◇電話があった場合、現場には、派遣員と市職員で一緒に行って、確認をします。そこでの大きなメリットというのは、私たちは建築に携わったプロとかではないので、お客様にどうしたのですかこれまでどうされていたのですかということから尋ねますが、派遣員さんたちはこうすれば早い、というアドバイスをしてくれるのでそういう面で非常に助かっています。やはり見てすぐに原因を言葉にできる人たちがプロとしていらっしゃることはとても心強いです。また、市と協働することによって住まわれている方にとっては安心感を得られるという意味でメリットがあると思います。

●今までの審査の中で、この事業は他の事業とは違って建築などに関わることなので、事業の公平性、透明性の確保について特段の配慮をお願いします。

◇いわゆる公平性とか透明性とかいうことについては、前回4年前にも、お話をさせていただいたかもしれませんが、公平性については、必ず市に登録している指名登録業者の中から市が選定させていただいております。透明性については「住マイむなかた」さんの方から、我々が指名させていただいた業者さんに対しメール等でそれぞれに見積依頼を送っていただいている状況になります。ですので、談合とかいう状況もないですし、また、全部トータルしてご存知なのが長年いらっしゃる派遣員さんで、派遣員さんと業者さんとで通じているのではないかという話もあるかと思うのですが、派遣員さんたちは、派遣規約の中に秘密を保持しなければならないという一文を詳しく記載することで対処しています。

●これまで、4年前にも同じような指摘を受けているわけですね。それから透明性とか公平性に対して、新たにどういう対応をされたのかがあれば教えていただきたいです。

◇前回の審査に関しての指摘事項に対する今回の対応を読ませていただいたのですが、前回いただいた審査結果の詳細で特にこうしてくださいということに関して、市に対して、「事業実施に際して事業の透明性と公平性に十分注意し、緊張感を持って取り組んでください」という指摘を受けたのがこの部分ですね。先程も申し上げましたように、継続して取り組ま

せていただいております、今後もということでおっしゃっていただいたので、異論のないように続けていただいているということです。

●かしこまりました。どうもありがとうございました。

＝審査シート記入＝

（２）花いっぱい運動花苗配布 及び花いっぱいコンクールの実施

市関連部署；維持管理課

団体及び担当課から、提案内容について説明後、質疑応答

●担当課に質問ですが、今、正助ふるさと村からこの業務について課題が出ていて改めた方がいいのではないかと話が出ていて、担当課の方からは花苗がこのくらいで参加団体が多い場合もあったり少ない場合もあったりということで、花苗の数をどうしたらいいかという話になっていますが、花いっぱい運動そのものが始まってから２０年以上経っており、今後はどうするのか。あくまでも市が予算措置をしながらこれをどんどん進めて行くのか、あるいは、市民がこれを代わりにしていくのか、現状程度とするのか。市の方がむしろこういう風にやっていくという考え方を決めて、それを委託の正助ふるさと村にこういうふうにして下さいとするのか、市の考え方はどうなのですか。

◇この間もお話させていただいたように、一定程度長い期間こういう事業をさせていただいて、最初は花を配って植えていただければという形で進めてきており、今後も続けていきたいとは思いますが、当初の花をいっぱいにするという目的を、もう少し参加者の方に意識していただけるような取組みを進めて参りたいというふうに考えております。今の予算について、花の数を変えなくても花が目につくところにあるように管理方法をよりよくして花をもっと目立たせるように、そういう取組みも併せて行い、事業をより活性化させていきたいと考えています。事業効果は数字ではなかなか現れにくいのですが、事業としては効果があるのではないかと考えています。

●現在の規模で継続していきます。継続するにあたっては、効率的にやっていくということですか。

◇予算的の問題もありますので、現状ではすぐに規模を増やせる状態ではありません。

●今後もっと増やしていくのか、それとも縮小していくのか。そのあたりをはっきりさせた方がいいのではないですか。あくまで個人的意見です。

●花の苗の品質に感ずるクレームが増えてきている。スタッフの数などもしっかりと見直しをしてほしい。それとスタッフの件で、「住マイむなかた」の方に申し上げたのですが、作業員の時給は、それぞれ団体が判断するのはいいのですが、８００円は少し低いのではないかと。

２９年度に向けての市との話し合いは、どのくらいの頻度で行われているのですか。

⇒今、花いっぱい運動について、正助ふるさと村から企画案を提出させていただいています。将来の展望とか、課題があってそれに対して公金を使ってどうしていったら良いかなどの解

決方法や、まずテーマをもって見直したほうが良いとの提案をしています。

●今言われたように、提案団体と相談しながら来年度に向けて取り組んでいるということですね。

⇒うちとしては、ノウハウを活かして交流も含めた市民向けの農園教室等をしており、農園教室後に参加されている方と餅つき体験をしたりしています。そのあたりであればうちの経費で出来るので。

●担当課と団体さんに聞きたいのですが、ここに予算書の内訳があり、トータルでは大体似通ったような数字が出てきていますが、数字を見ると、どういう事業に重きをおいているのかということがお互いの中で違うのではないかと思います。この違いは何でしょうか。

◇宗像市は、公共事業的な積算をしているので、諸経費の中に正助さんにあげていただいている備品などを含んだところで積算しています。

●コンクールに力を入れているということではないのですか。

⇒小さい会議室で表彰状を簡単に読んで渡したようなイメージがすごくありますが、そうではなくて一年頑張っていたところをもっと皆さんの前でということはあるので、記念品にしても写真を額縁に入れたりということを独自でやっています。

●4年前の審査会時に、登録団体同士の繋がりという話が出て来ましたが、そういったところは何かありますか。

⇒それはなかなか今まで取り組んでいないのが正直なところですよ。ちょっとアンケートをとったのですが、それは時間的に無理だとかいう意見が多かったです。

●以前からカノコユリを色んなところに植えるという事業を他の団体が人まち補助金事業で市と一緒にされていると思いますが、そちらとのコラボはされていますか。

⇒カノコユリはうちでもやっています。今私たちは5年目に入っているのですが、その球根が上手く育てば、市の花なので、カノコユリでまちづくりを行うというのはもちろん希望はあります。ただ、球根を他の団体に分ける程上手くいっていません。

＝審査シート記入＝

(3) 子どもの居場所づくり事業

提案団体 ; With Wind

団体及び担当課から、提案内容について説明後、質疑応答

●子どもの活動支援を長くされてきた方が集まり、WithWind ができて、それから市との協働につながり、すごく活動が広がったと思いますが、協働するようになり担当課と団体からお聞かせください。

◇子ども基本条例を作りましたが、それを実際にやっていくとなると長年、活動されてきた人たちの力を借りなければなりません。協働で実施することで専門知識や考え方を、いろいろと学ばせていただいています。

⇒市と協働することで、公を見るという視点を持たせていただけますし、ネットワークを地

域に広げていきたい時に、そこにいらっしゃる人や団体を知ってらっしゃるので、そこを教
えてもらったり上手く繋げてもらえています。人材を育成するところにおいては協働の視点
で予算もいただいるので十分に進んでいると思っています。人材育成の部分では先程もお話
した子ども支援パークや養成講座などもやったださっているのです、そこからも人材を供給
されたりなど、そういうことも継続的にできることとして大きいなと思います。

●2013年に実施された公園の実態調査の調査結果はどうなっていますか。

⇒2013年度の調査結果では、164箇所の公園で、174人の子どもと大人に対してそ
の場でインタビューをしております。家の近くの公園で子ども達が遊んでいるということが
分かったのですが、ただその遊び場になぜ来るのかというと自分の家に近いからとか安心で
きる場所、それと見守りの大人がいると安心できるから集まっているというケースがとても
多かったです。私どもとしましては、その結果を踏まえて放課後プレーパークをどこに連れ
て行くかというのを考えました。そして、今、子ども達が集まりやすいところ、また集まり
にくいけれどそこを活用するとまちの中で子どもの居場所になるのではないかとということ
で、例えば自由ヶ丘の11号公園は、子ども達がいらない地域なのですが公園としてはとても
立派な公園なので、そこに子ども達が遊びにくることになって賑わいが生まれるといいなと
いうことでやっていたところ、今は子どもが定着してきて、近隣の人たちも来るようになって
います。また、今日、日の里4号公園でプレーパークをやっているのですが、そういった
ところでやっていると関心をもって大人がやってくる。前回来てくれていた近所のおばちゃん
が次回も来てくれるようになることがあります。

●現在はワーカー的な人がいないと子どもが入っ来にくい状況ですか。

⇒今の保護者は一人で子どもを出すことをためらいます。私がまちの至る所を子どもの遊び
場に、皆が顔見知りになって子ども達がどこを歩いていても危なくない宗像市にしたいと
思っています。

●とても良くまとめられていて数字とかも分かりやすかったのですが、様式5号の2013
年から2015年にかけて若干子どもプレーパークが減っているのは出張プレーパークや
放課後プレーパークが増えたからかなと思ったのですが、それ以外に何かあれば教えていた
だきたいです。もう1つ、プレーワーカーという方がどれくらいいらっしゃって、また、有
償なのか交通費くらいはお出しになるのか、そこをお聞きしたいです。

⇒1点目の子どもプレーパークが減っている点については、説明します。初年度はマスコミ
に出たりしたので、遠くからも来ていただき、2013年の7月から人数が増えました。一
番多いときで一日に大人も含めて150人というようなこともございました。その前の年は
全戸にチラシを配ったりしていました。今はチラシもそれほど配っていません。人数は落ち
着いていますが、新規の方もいれば、前回からの方もいます。もう1点、プレーワーカーに
ついては、協働化提案をさせていただいているおかげで、子どもプレーパークについては5
人入っています。そのうちの2人がその日のリーダーということになっています。研修も含
めているのですが、プレーワーカーのうち経験年数が1年未満の方は時給750円、2年以
上の方は時給850円で実施しています。プレーワーカーは子連れできていいことにしてい
て、初年度は750円代の若いママたちが自分の子どもを連れてきて、夫婦のような存在で

いてくださいといっています。そこでスタッフと参加者と分けたくないのです。支援者と支援される側の関係になると、そこで子ども達の自発的な遊びが見られなかったり、自主的に動く人が多くなると子ども達にとっては居心地がよくないので、とにかく新しく入ったママスタッフの方たちには、そこで親子で遊んだり子ども達と一緒に遊んだりしながら良い空気を作ってほしいと一番初めの研修でお伝えしています。

●交通費はいくらくらいですか。

⇒市内なのでありません。

●登録されているワーカーさんは何名くらいですか。

⇒21人です。

●自主開催、あるいは協働開催が出てきていますが、例えば、いせきんぐの自主開催が、どうしてできたのか教えてください。もう一つは「怪我と弁当は自分持ち」ということですが、実際に怪我をしたときに、学んだこと、教訓として今あること、以上2点について教えてください。

⇒いせきんぐについては、一年間で自主開催になるように、一年間は共催として一緒にやりますが、一緒にやりながらそこで学んでいってくださいというふうにしました。それで6月の段階で来月から来ないよと伝えたら、いせきんぐの中で会議が持たれたみたいですが、村長とメールのやりとりをして、いせきんぐで本当に子どもプレーパークを続けるか続けないかのところで、私は、「地域の子どもの遊び場として一年間やってきたものがなくなるのはとても損失だし、地域の大人たちがいるから子ども達も安心して来れるのですが」とお伝えしたところ継続していただいています。また、今年度9月から岬コミセンでも行っていますが、そこでも新しく始めるところは一年間一緒にやっていきましょう、そこでお互いに学んでいきましょうということで、その後は自主開催でやってくださいねという話をしながら広げていっています。

もう一点、「怪我と弁当は自分持ち」ですが、今のところ一件骨折がありましたが、あとは本当にかすり傷程度です。実は、私たち怖いんです。例えば先程お見せした倉庫の上で子ども達が遊んでいるとき、ワーカーはとても怖く、早くやめさせたいので注意したくなったりするのですが、その時ワーカーのなかでどうするというのは子ども達の分からないところで話し合っただけで大丈夫かどうかの見極めをして、どうしても5人いるワーカー全員が危ないと判断したときは、危ないよとだけは言いに行きます。してはいけないとは言いません。判断は子ども達に任せています。子ども達に任せることで子ども達は自分たちの責任として受け止めるので、注意深く遊んで大きな怪我にはなりません。また、子ども達に任せることで自分たちの小さい怪我だったら自分の責任だからというふうに子ども達の強さから学ぶことはいっぱいあります。

●コミュニティ運営協議会との関わりはどういう感じなのか教えてください。

⇒コミュニティには、子ども育成課の職員と一緒に行かせていただきますので、話しがとりにくいということは基本的にありません。

◇私どもの方で、各地区コミュニティで月に1回開催される青少年育成部会などに出席していますし、子ども会の事業のときなどにも、折に触れてプレーパークを紹介しているので、

今かなり認知度が高まっています。

●コミュニティごとの特色については、どうですか。

◇コミュニティごとに特色があって、吉武は、吉武の子どもは吉武で育てると打ち出しているだけあって、手法を少し伝えたら、後は自分たちでやっていただいています。岬では、事務局中心で行っていて、放課後プレーパークを通じて地域の人たちを巻き込みながら進めています。日の里に関しては、部会等に通いながら進めています。今この時期に話をもって行けばスムーズにいくのではといったタイミングも含めて、市と互いに情報を共有しながら話をしながら進めています。

●予算の管理運営費に、消費税が出てないですが、そこが必要かなと思いますが。

⇒2013年度は県の委託事業も受託していたので約1,600万円の事業をしました。

それに加えて宗像市からこの協働の分が300万円ほどありました。

●最終的にどういうかたちで使ったかというのは出ていますよね。

◇担当課としても、決算の状況は確認しております。総会の時に決算報告があり、その決算報告の中に年間の委託料450万円ほどは全て事業に使われています。消費税の計上の仕方、予算の作り方に関しては来年度29年度予算に向けて団体と協議して決めたいと思います。

●これから活動を継続して、20数名のワーカーさんを取りまとめていくにあたっては、事務局というのが必要だと思うのですが、そういうことは考えてらっしゃらないのですか。

⇒2013年度県の事業を受けていたときは事務局を置いておりました。今は会員のなかで事務局的なことをやっていますが、当然事業を広げていくにあたっては必要になってくると感じているところです。

＝審査シート記入＝

3. 審査（各委員の審査シートを確認しながら協議）

【住マイむなかた】採択

●付すべき条件を書かれた委員さんは特にいらっしゃいませんでした。

●「住マイむなかた」の件で、勉強会の時も少し確認していただきましたが、参画審で協議するというのはそれはそれで意味はあるのですが、参画審で検討する範囲をもう少し検討し直さなければならないのでは。我々が現場に行くわけでもないし。「住マイむなかた」の事業を審議することは、専門的なところがあるので、参画審で審議はこういうところだということを仕分けする必要があるのではないかと思います。他の事業に関してはある程度イメージがつくが、この審議は難しいと思います。

◇前回の勉強会の際も同様のご意見をいただき、私どもも考えていたのですが、市の業務も複雑な部分があるのでおっしゃっていただいたとおり、なかなかイメージが沸きづらいということがあると思います。例えば今日の建築課で言えば、市営住宅の管理というのがまず大きな業務としてあって、その中で住宅に不具合があれば、その修繕業務があり、ここの領域を今回協働化提案制度でご提案いただいているのですが、委員さんがもう少しイメージし

やすいように整理をした状態で提示できるようにすべきであったと考えております。担当課の方には、もう少し分かりやすく解説させるべきであったと思っております。

●それでは次に右側の「特に考慮をお願いしたい点」を確認していきます。

●担当課に向けて、「今後も実施にあたっては透明性の確保に努める」。「提案団体に依存しすぎないように対等の立場で協働するよう留意してください。」の2点を記載しましょう。

●次に、協働委託で新しい価値を生み出すことが協働委託の目的なので、「協働委託が登録会員の技術向上につながるよう工夫してほしい」と記載しましょう。

【正助ふるさと村】採択

●特記事項については、「花苗の品質向上に努めてほしい」、「コンクールのあり方については、今後さらに工夫し、PRをしてほしい」を記載しましょう。

●「市民参画の仕組みづくりを入れる」という意見はどうでしょうか。

●例えば、花の苗をつくる段階に市民参画の仕組みを取り入れて、花苗の段階でコンクールをしてみてもどうか。花の種をまいて、こんなに立派な苗ができたという、苗のコンクールをさせればいい。そして、こういう苗からこんな花が咲いたという風に、といったことを考えたかどうか。

●それでは、ちょっとまとめて「花苗の品質向上とともに苗作りの段階から市民参画の仕組みを」と記載します。

【WithWind】採択

●所見として、「中高生の居場所事業については意義が大きく提案団体の熱意は分かるが、今後の発展可能性が見えない」と記載してほしい。

●担当課に確認したところでは場所がメイトムで行きにくいとの意見もあるみたいなので、アクセスの良い Cocokara 日の里などの他の場所も検討されているみたいです。中高生については今後しっかり考えなければならぬですね。去年よりは今年の方が定着しているみたいですが。やはりそんなに大きくは広がらない感じなので、もう少し工夫、検討が必要かなと思います。

●次に、予算書にある消費税の取扱いについて。

◇これもちょっと補足で、前回ご指摘いただいて、市の契約検査課に確認しましたところ、消費税が課税されていない事業者については、消費税の金額を外して契約をするようなことはあるということでした。

●消費税を入れないということも可能なのですね。

◇当事者同士で相談させていただいて、納付する必要があるとはっきり分かれば、消費税を外した額で契約をして頂きたいと思います。ですので、ここの場での審査と言うよりも、他の委託契約の市の基本的なルールに準じてやっていただきたいと思います。

4. その他（事務局より）

- ・ 11月2日までに会長副会長とやり取りをしながら答申案をまとめる。
- ・ 委員の任期が切れるため、10月1日号の広報紙で公募委員の募集を掲載。一旦、空白の期間を設け、委員を新たに選定し、10月1日号の公募委員と合わせて仕切り直してやっていく。
- ・ 10月付けで政策係へ異動となった新任職員の紹介。

= 散 会 =